

II 特別連載 II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第292回

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出国と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は広島大学と一般財団法人海外産業人材育成協会が実施したオンラインプログラムについて紹介する。

広島大学の活動報告



鈴木 卓弥 (広島大学 生物生産学部教授、副学部長)

SDGs達成のための 国際オータムスクール開催

広島大学生物生産学部では、さくらサイエンスプログラム支援のもと2021年10月14日~11月3日に国際オータムスクールの開催を行いました。今年度は、国立サンマルコス大学



オリエンテーション参加者で記念撮影



オンラインプログラムワーク

2つのプログラムワークではサイエンスを軸として

1日目はオリエンテーションを開催し、本学のホスト教員と参加大学教員の自己紹介や留学説明会を行いました。本学で学んでいる国費・私費留学生の代表各1名がプレゼンテーションを行い、学生の立場から広島という地や生活環境についても説明し、質疑応答では参加者との活発な交流がありました。2日目は国際シンポジウムを開催し、参加大学の教員5名と本学教員1名が、各国におけるSDGsを達成するための取り組みや、どのように貢献し、課題は何かなどについて発表。質疑応答を通して議論を深めました。この2日間以外にも2つのオンラインプログラムワークを開催しました。10月22日には、ペルーの国立サンマルコス大学と「経済的な海洋資源の遺伝学とバイオテクノロジー」を実施し、日本とペルーの商業的に重要な海洋資源の生物学を理解するための遺伝的手法の使用について議論しました。また11月3日には、台湾の国立嘉義大学と「瀬戸内海および豊後水道に生息する甲殻類の種同定」を実施し、練習船「豊潮丸」での研究航海中に採捕される甲殻類を、オンライン会議システムを利用して同時に観察し、あらかじめ両者が手元に準備した図鑑類を活用して観察・同定をしました。双方の大学には甲殻類生物学の専門家を置き、両大学の学生に同時に指導をしました。

学生の国際交流を深め、留学のモチベーション向上のみならず、実施教員を加えた共同研究の発展に大きく貢献できました。今年度は

オンラインでの開催ではありませんでしたが、多くの参加者を迎え実りある時間を共有し、無事オータムスクールを終えました。

AOTSの活動報告



佐々木 明子
(海外産業人材育成協会
グローバル事業部)

ドローン用いた

建設業界における問題解決

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)では、インド工科大学グワハティ校(IIT-G)の学生に向け、今年1月27日に本プログラムを実施した(コロナ禍で、日本へ招へいする形式からオンライン交流に変更)。プログラムのテーマは、土木工学の学生に関心が高いと思われる「ドローンを用いた建設業界における問題解決」とし、講師も参加者もそれぞれの拠点からオンラインで参加した。

AOTSとIIT-Gは、2019年5月に人材育成、研究協力、ビジネス交流等に関する包括的な協力関係を構築するための協力覚書を締結し、友好的な関係を築いてきた。今回のプログラムも同覚書に基づいて計画されたもので、実施にあたりIIT-Gからは前向きな協力を得ることができた。

インドでは現在、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、同校のキャンパス内で自由な行動が制限され、学生は寄宿舎からの参加となることを伝えられていた。参加者数について心配していたところ、担当教員の協力があり、土木工学以外の学生も参加された様子



IIT-G クマール准教授



スカイロボット社 松永講師

IIT-Gの土木工学科 Arjan Kumar 准教授からは、「大変、有益なセミナーであった。次回は社会的な利益のために利用できる、ドローン技術のより実践的な使用方法についての講義を期待したい」というコメントをいただくことができた。新型コロナウイルス感染症の影響で日本への招聘が困難な状況が続いているが、交流が再開できる見通しが立てばぜひ、同校の学生を日本に招聘したい。最後に、本プログラム実施にあたり協力をしてくださったすべての関係者の方々に感謝の意を表したい。

今回の講義は、(株)スカイロボット(東京都千代田区丸の内、2014年9月創業)の協力で実現した。同社はドローン、周辺機器やソフトウェアの販売、レンタル、各種ドローンソリューション・サービスやドローンスクールの運営を手掛ける企業であり、担当講師は社員の松永恭輝氏であった。IIT-Gの学生にとって年齢的にも近い松永講師による流暢な英語での講義は、聴講者を飽きさせない工夫が随所に見られた。複数の動画が効果的に使用され、ドローンの魅力が余すところなく伝えられた。

また、建設業界にとどまらない様々な分野でのドローンの可能性について、テンポよくプレゼンが進行。学生は大変集中して受講していた様子が窺え、最後の質疑応答でもIIT-Gの学生らしい技術的な質問が複数寄せられていた。

当日のプログラム

1	スカイロボット社の事業説明
2	ケース・スタディ
3	i-Construction とは
4	i-Construction におけるドローンの活用
5	ドローンに期待されていること
6	質疑応答

で、当日は大きく予想を上回る参加者数(70名前後)となった。